

花川北コミュニティセンター

<質問>

新港地域の将来の土地利用（資料 2 4 ページ）に「再エネ電力 100%」とありますが、新港にある事業所の電力を風力・太陽光で 100% 供給するのですか。

<回答>

新港地区には現在も風力・太陽光発電施設がありますが、この他に風力・太陽光・バイオマスなどで発電した電力を集めて供給するエリアを設け、例えばデータセンターなどの再生可能エネルギーを 100% 使う企業を誘致するというプロジェクトを検討します。

新港地区は今までは物流のイメージでしたが、これからは更に情報やエネルギーでの発展が期待されます。

<質問>

花川南の土地利用のあり方の検討について一実現したい住宅地（例）（資料 6 2 ページ）に「3 階建ての建築が可能」とありますが、現在、3 階建は許可にならないのですか。

<回答>

バス通り沿いは建てられますが、低層住居系用途地域には 3 階建は難しいです。

現在、低層住居系の地区は車を停めるスペースが少なく、組み込みの車庫を作っても道路より低い半地下でなければ作れない状況だとおもいます。もし 3 階建が可能になると、道路とフラットに車庫を作り、2 階、3 階を住宅とし、土地を有効に使えるようになります。また、これから新しく住む人に土地を売りやすくなるというメリットもあると考えられます。

今住んでいる人からは、日影になるから困るという声もあるとおもいますが、今後みなさんのご意見を伺いながら検討を進めることになります。

<質問>

花川南地区の土地利用のあり方の検討の資料はありますが、花川北地区の資料はないのですか。

<回答>

花川北については、以前 2 世帯住宅を建てたい、平屋を建てたいというようなご意見を伺い、建蔽率や容積率を緩和した経緯があります。

しかし、花川南については造成されてから見直しをされていないということで、今回ここに力をいれているということです。

資料はありませんが、花川北地区では全ての街区公園にコストをかけてより、例えば、遊具はいらないという公園は遊具を撤去して、そのそのかわりに紅葉山公園に遊具を集約し、家族連れを集めるというようなことを考えています。

<質問>

札幌市から石狩市に通勤されている方は多いと思います。石狩湾新港周辺の市街化調整区域を、住宅が建てれるよう緩和できませんか。

<回答>

札幌市から新港地区に通う人たちが、石狩市に住んでいただければ良いと考えますが、市街化調整区域に住宅を建てられるようにすることは、今後人口が増えてくる状況にないと厳しいです。

道内は人口減少傾向にあり、北海道は市街化区域の拡大を許してくれない状況です。

<質問>

私の住んでいる地区はバスが平日3便しかなく不便です。そのため、病院で診察を受けたくても、診察時間に間に合わない、待ちすぎるといった状況にあります。今後コミュニティバスなどを導入する考えはありますか。

<回答>

交通ネットワークについては都市骨格方針にも関係がありますが、交通不便地域の問題などは別所管課が公共交通網形成計画で検討しています。コンパクトな街を作ってもそれぞれを繋がないといけないので、最終的に都市骨格方針はこの交通計画を踏まえてとりまとめます。

厚田と浜益の間は中央バスが撤退しデマンドバスが運行していますが、民間バスが運行している区間に新たに石狩市もバスを運行させることは、過去に循環バスの実験もしましたが、お客さんの取り合いになり民間バス会社の収益が減ること、また、市がバスを走らせたために、既存バス会社が撤退することもあると考えられるので実現は難しいです。

<質問>

同じように市民税を払っているのに、石狩市は花川南や緑苑台に投資し、石狩川以北には何もやってくれないという声があるので、十分に留意していただきたい。

<回答>

花川など市街地でスーパーなどの生活拠点を保つことが、郊外にお住まいの皆さんの生活を守ることに繋がりますので、そのようなことを考慮しながら計画策定をすすめていきます。

<要望>

石狩市は繁華街も店がバラバラで、「石狩市と言えば」というものがなく寂しい。歴史ある街なのに歴史的建造物がほとんどない。これらのことも十分考え計画の策定をお願いしたい。

<質問>

この骨格方針はどのような方向性を持ち、どのように見直しますか。

<回答>

都市計画では、これまで広がってきた市街地の人口が減少し、またサービスの低下が予想される中で、人口集中地区では人口密度を保つことで、サービス施設を維持し、歩いて暮らせるコンパクトな街づくりを進めていかなければならないと考えています。

立地適正化計画は、これまでの土地利用の考えだけではなく、行政サービスや日常のサービスを充実させることで人を集め、将来に亘って持続可能なまちづくりをすすめようとする考えです。

<質問>

人口減少、超高齢化社会になると税収が減少するので、持続可能な社会を作るためには、綺麗事だけでは済まないと思います。素案にある地域づくりや公園整備は、国で進めている社会ストックの長寿命化検討の視点を踏まえていますか。

計画期間は20年間のようですが、20年間計画を作成し、事業の実施はしないのですか。

<回答>

この計画は、都市整備におけるこれからの将来の方向性を示す、個別インフラ計画の上位の計画になるものです。これを受けて、今後の個別インフラ計画に反映されます。今まで整備してきた施設の長寿命化や、更新には優先度を持つことも、個別の計画で定めていくことになります。

道路、公園などを整備する計画は既に動いていますが、都市骨格方針を踏まえ、方向性を修正し事業を進めようとするものです。

<質問>

従前の計画については、どのように評価されていますか。

<回答>

従前の計画は、大勢の方から多岐にわたる沢山のご意見いただいて作られた計画です。今の時代背景を取り入れながら、それらを一つひとつ検証し、残すものは残し、見直すものは見直し、従前の計画をベースに策定を進めていきます。

<質問>

今回の計画の構成が前回と違います。骨格方針の構成として、都市計画マスタープラン、緑の基本計画、住生活基本計画の3つの計画に、新たに立地適正化計画を加えていますが何故ですか。

<回答>

前回の計画策定では、環境基本計画、水とみどりの基本計画、都市マスタープランの3つの計画で作成し、最終的には各計画ごとに分けました。今回は、国土交通省の長期計画を軸とし、都市計画マスタープラン、緑の基本計画、立地適正化計画、住生活基本計画を一つに

まとめ、それぞれの整合を図り、シンプルでわかりやすい計画にしていきます。

<質問>

資料に将来の人口の推計が載っていますが、この人口についてはどう評価していますか。

生活サービス施設が少なく日常生活が不便なため、鉄道の誘致についてはこの計画には含めないのですか。

<回答>

人口推計については、資料にはあくまで国勢調査の数字をベースにしたものを載せています。市が既に定めているまち・ひと・しごと総合戦略では、街に活力を作り人を呼び込むことで、人口減少を最小限に止めようという考えです。

軌道系については道央圏都市総合都市交通体系調査協議会の中で、この石狩には軌道系必要という考え方もあるため検討が必要とまとめられており、全く無くなった訳ではありませんが、現実的には前に進んでない状況です。道央圏都市総合都市交通体系調査協議会での結論をよく検討したいと思います。

<質問>

当初の計画では、樽川の農業振興地域に進出したい事業者が出た場合は、土地利用を商業地域に変更するとなっていました。事業者が出てもそれを無視したのはなぜですか。

<回答>

人口減少の状況では、市街化区域の拡大の法的手続きが非常に難しいです。市街化区域の拡大については国も非常に厳しく考え、また、新しい地区を整備する場合は、雨水排水などのインフラ整備の問題もあって、市街化区域の拡大は難しい状況です。

<質問>

若い人達がこの街に住みたくなるような計画にしてほしい。鉄道の誘致については積極的に進めていただきたい。鉄道というものを大前提にして計画しなければ、市の発展に関する肉付けが全く出来ないと考えます。

<回答>

以前、市としても、鉄道や地下鉄の延線について議論がありました。

道央圏都市総合都市交通体系調査協議会で、平成22年に20年後の先を見据えた計画として、軌道系については、パーソントリップ調査の結果や収支の面でも非常に厳しいとされ、前に進んでない状態です。

人口推計を踏まえ、人口をどう増やすかについては、出来ることをやっていきたいと考えています。いま道庁は、市街化区域を拡大してよいのは千歳市、恵庭の2市だけとしています。そのような状況の中、石狩市も生き残りをかけて真剣に考えなければなりません。

人口が減ってる理由は、自然減です。それを防ぐには、相当人を流入させないと、追いつかない。これをさまざまな角度から分析した上で、少しでも人口が減らないように市民の皆さんと考えていきたいと思っています。

<質問>

石狩市は、花川北と花川南でそれぞれ均質的に住宅街が広がっていますが、具体的にはどこに都市機能を誘導するのですか。

<回答>

現状においては、花川北は生協周辺がひとつの核となり、花川南はバス道路沿いに店舗が立ち並んでいたところに、樽川が造成され大きな商業ゾーンが確保された状況です。石狩市が立地適正化計画を定めても、誘導できるかどうかは非常に難しいとは思っていますが、石狩湾新港で働く皆さんに花川南に住んでもらえるような土地利用の考え方がないかなど、皆さんからの意見を伺い検討したいと考えています。

<要望>

石狩市に住んで一番の不満は除雪という声が多いので、そこを踏まえて計画策定を進めていただきたい。

<質問>

札幌から新港地域に通勤している人たちの住宅対策は、人口の社会増だけでなく、自然増にも繋がるので、十分考えていく必要があるとおもいます。また、特に高齢化の進む花川北地区の今後の空き家、空き地対策についても検討しなければなりません。

石狩市の市営住宅は使われていない平屋建てが多いが、建て替えについてはどうお考えですか。

<回答>

新港地区で働く人達に花川北地区に住んでいただければ空き家対策となり、また人口減少が進み、高齢者が増える中に若い人が入ることで、町内会活動などの地域コミュニティの復活に繋がると考えています。そのために、例えば誰も遊んでない公園の遊具は更新せず、大きな公園には子供達に魅力のあるような遊具を集約するといったような施策も考えています。

市営住宅の建替えは、今回計画する「住生活基本計画」で必要な戸数を定め、「長寿命化計画」で建替え計画を検討していきます。戸数については、本町地区や厚田区などから居住誘導区域内に少しだけ移すことも検討しています。

<質問>

花川北地区については、既に天然ガスが利用されていますが、花川南地区は、天然ガスがまだ敷設されていません。ガス一本にすると経費的に安く済みますので、市から北ガスさんに働きかけてみてはいかがでしょうか。

<回答>

花川北以降に造成された地区に関しては、ガス、上下水道なども計画的に進めてきましたが、花川南地区は、民間の宅地開発が先行したこともあって、導入が難しいのは皆さんご承知の通りです。今いただきましたご意見は、検討の一つとして考えていきたいと思えます。

<質問>

公園の利用方法の拡大等の中で「ふれあいの杜公園におおぞら児童館の機能を移転」とありま

すが、施設規模は中途半端なものではなく、十分な広さを確保してほしい。

また、今のおおぞら児童館を廃止せず、ある程度残しておけないでしょうか。

<回答>

最近、国の方針で公園の多目的な利用が可能になったことを受けて、樽川地区の放課後児童クラブが不足することへ対応するものです。現在のおおぞら児童館の施設規模は木造２階建てで３３７平米です。

新設の施設規模など、おおぞら児童館の移転・新設についてのご意見がありましたら、１２月２７日から１月３１日までパブリックコメントをやっていますので、こちらにご意見をいただくと議論も深まりますので、よろしくお願いします。

<質問>

石狩湾新港が開発された時代は、職住分離の考え方だったが、近年、職住接近の考え方になっています。計画も職住接近のような考え方に変更できないでしょうか。

<回答>

新港地区と花川・樽川地区の間には、市街化調整区域がありますが、そこを市街化区域にすることは手続き上難しく、また、排水のためのコストもかかるので、費用対効果で今は厳しい状況です。職住近接としては、輸送機関を効果的に機能させることでの時間的短縮など、利便性向上を考えています。

<質問>

石狩湾新港へのフェリーボートの導入については、現在どのような状況でしょうか。

<回答>

いま現在は港湾計画には無いと思います。

<質問>

花川南地区の近隣商業地域では、閉店する店が増えています。その跡地にアパートや個人住宅建っていますが、これらの建設を制限できませんか。

<回答>

目指すべき地区の姿はあり、店舗の誘致もやっていますが、なかなか現実に結びついてない状況です。この計画策定にあたっては、市民の方々の意見をいただきながら、進めていきたいと考えています。

<質問>

花川南だけであれば、市が人口密度をある程度コントロールできるかもしれないけど、これを市全体で考えてみると、石狩市の持続可能な準備になっていると思えません。

<回答>

花川南を強固にすることで、この地区に買い物に来られる方々の生活を守ることにも繋がり、石狩市全体が持続可能になると考えます。